

部局の垣根を超えた総合対応に感動～「人を生かす」障害者雇用の本質

米須愛子（保健師）

先生が公務員として長きにわたり大切にされてきたというお話は、現在地方公務員として働いている私にとって、目指すべき姿そのものでした。

特に、老人福祉から老人保健の分野へ移られた際の気づき、「寝たきり老人は社会によってつくられた」というゆきさんとの出会いから、「常識を疑い、変えたい」という強い思いが育まれたというお話は、私たちが講義全体を通じて学んできた「前例を超えて挑戦している人々に学ぶ」というテーマそのものであると感じました。

なかでも、危機管理部門でご勤務されていた時の、所管問題よりも国民の健康を守ることを優先する姿勢、そして部局の垣根を超えた総合対応という点は、「さすが」と感動すると同時に、その裏側にいかに大変なご苦労があったかを想像しながら拝聴いたしました。

と申しますのも、現実には課を超えた調整ですら難航することが少なくないからです。その背景には、多くの部署で人手が足りず、一人で二人分の仕事をこなすような状況のため、「これ以上仕事を増やしてくれるな」という切実な空気感があるように思います。

この難しさは、障害者雇用推進の課題にも通じると感じています。日々の業務に追われるあまり、個々人の特性に応じた丁寧な配慮や対応を行うことが難しいということは今現在も起こっています。

だからこそ、「誰にとっても働きやすい職場環境づくり」が遠回りのようで近道なんだと感じました。そして、それは障害のある方々の成長を促すと同時に、職場のメンバーや組織自体の成長にもつながる、「人を生かし、共に成長する」ための取組なのだとも思います。

まだまだ道半ばではありますが、公務員として、保健師として、そして大学院生として、先生からいただいた学びを活かし、前進していきたいと思います。本日は、貴重なご講義を誠にありがとうございました。